

令和元年度掛川市地域創生戦略会議ワーキンググループ会議 議事概要

日 時	令和元年 7 月 22 日 (月) 13:00~16:30
会 場	掛川市役所 5 階 議会第一委員会室

■出席者（敬称略）

No	所属等	氏名	出席状況
1	静岡銀行掛川支店 支店長	木野 章博	出席
2	一般社団法人静岡経済研究所 主席研究員	山田 慎也	出席
3	静岡大学 人文社会科学部長	日詰 一幸	出席
4	掛川市地区まちづくり協議会連絡会 会長	中村 隆哉	出席
5	静岡県西部県民生活センター 次長	高橋 由利子	出席

発言者	発言内容
1. 開会	
事務局	(省略)
2. あいさつ	
会長	<p>こんにちは。</p> <p>創生戦略会議に先立ちまして、ワーキングで担当を4名の方にお願ひし、論点をご提示いただいた上で詰めながら、戦略会議に報告し、さらに戦略会議でも議論を行い最終的な評価をするという仕組みになっています。それぞれご担当いただいている重点施策について、論点を提示していただきながら議論を深めていければと思っています。</p>
3. 議事	
会長	<p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>掛川市地域創生戦略会議におきましては、議事に入る前にワーキングの本旨と本日の流れを簡単にご紹介させていただければと思います。</p> <p>本日の資料に記載してされておりますように、第1回の会議以降、委員の皆様から非常に多くの御意見をいただきました。</p> <p>ご提出いただきました委員の皆様のご意見の中から外部評価として、評価書に掲載していくべき意見の選定あるいは、外部評価として評価書に掲載すべき事柄の洗い出しを本日行っていただくということで、このワーキングが設けられております。</p> <p>会議の進め方ではありますが、限られた時間の中で円滑に議論を進めるために、本日もご参加の4人の委員の皆様から4つの戦略をそれぞれ分担し、担当していただきました。</p> <p>議論の冒頭に、ご担当の委員の皆様から取捨選択した意見評価として追加すべき意見、本日の会議の中で議論すべき点などを発言していただきまして、それをもとに議論を深めていただければと思います。</p>
戦略の柱 1 掛川への新しい人の動きをつくる	
委員	<p>資料を分けていただいたと思いますが、重点施策 1 掛川への新しい人の動きを作るというところでそれぞれ意見が出たものを、私なりにポイントをまとめさせていただきました。</p> <p>この資料を元に、説明させていただきたいと思います。</p> <p>それぞれの項目で①が論点、②が具体的な提案・アイデアということで、意見を二種類に区分けしています。具体的な提案が論点になってもいいと思います。</p> <p>それでは早速 1-1 茶エンナーレから始まる掛川文化の創造から見ていきたいと思っています。</p> <p>まず論点として掛川が目指す文化芸術、茶文化とは何かというのを明確にする必要があるだろう。</p> <p>それから、こういった文化の創造というのは時間がかかるので、今回の計画期間だけでなく持続的な取り組みにしていく必要があるというふうな意見がありました。</p> <p>それから具体的に茶エンナーレの話ですが、茶エンナーレの目指すべき方向や特化すべき分野、これが少し明確になっていない部分があるのではないかと。</p> <p>それから意見の中で、特徴的と思ったのは市民向けというよりは、市外の人たちに</p>

発言者	発言内容
	<p>非常にプロモーション効果が高いです。</p> <p>ただ、このプロジェクトの中では、市民向けの形で位置づけられている。そこを少し変更できないかという、戦略的な意見がありました。</p> <p>それから、KPI の絡みになりますが、市民アンケート調査において、市民が行う文化芸術活動というのは具体的に何なのか。これは前回も議論になったと思いますが、そういうのは明確にしないと KPI の数値がはっきりあってこないのではないかと。</p> <p>それからもう一つは経験の水準の問題ですが、茶エンナーレが開催された 29 年度の数値、これを基準にして適正な数値に見直すべきではないかと。</p> <p>つまり、茶エンナーレをやった年がある程度のピークで、それ以上の目標設定をするのは、なかなか難しいのではないかとというような意見と私は読み取りました。</p> <p>そのような論点がありました。</p> <p>具体的な提案については、茶エンナーレと学校教育との連携をもう少し深く測ることや掛川文化芸術活動サポートセンターの創設により、拠点性や組織力を高めていく。</p> <p>それから、掛川祭で郷土の誇りや愛着を高めるという観点もあるのではないかと、という意見が出されています。</p> <p>次に 1-2 です。</p> <p>中心市街地活性化と多極ネットワーク型コンパクトシティということです。</p> <p>ここでの論点は、地域の実情に応じた交通手段や地域交通、公共交通網の整備、これを持続的に推進していく必要があると、うまくいかない部分もあるでしょうが、ここは重要なので継続的してほしいという意見がありました。</p> <p>それから、二つ目は KPI の中で中心市街地の居住人口や公共交通に不便を感じない市民の割合というのがありますが、これがプロジェクトの目的や政策の内容と合っていないのではないかとのご意見がありました。例えば、中心市街地の人口を居住人口というところですが、ご意見では中心市街地のにぎわいというのが外からにぎわいを作って来街者が増えるということであって、居住人口とは直接関係がないのではないかと、というようなご意見かと推察しました。</p> <p>それからと KPI の 3 でまちなか交流人口の令和元年度から 7 年の目標値が、実績値以上になっているので、今後の目標を上方修正した方がいいのではないかとのご意見です。つまり、既にたくさん人が来ているよ、ということなので、それより下の目標を設定するのがどうかという意見と推察しました。</p> <p>②の具体的な提案・アイデアですが、ここについて非常にたくさんの提案がありました。</p> <p>幾つか申し上げますと、中心市街地、掛川城を中核として、もう少し観光客を呼び込めるような、例えば統一したイメージであるとか、歴史の感じられるまちの通りの名前をつけて、イメージを外向けに発信していくというようなご意見やアイデアがありました。</p> <p>あと、公共交通についてはデマンド型乗り合いタクシーを今行っているということですが、この利用促進に向けて運行状況を改善していく、ということが必要なのではないかとのご意見がありました。</p>

発言者	発言内容
	<p>それから1-3です。</p> <p>市民総ぐるみのおもてなし観光客誘客促進事業です。</p> <p>論点としては、まだまだ観光客の受け入れ体制、仕組みが不十分でソフト、ハードの面も含めて、今後もっと充実する必要があるという意見。それから掛川が新幹線駅や文化資源の掛川茶など、非常に地域の優位性があるということなので、周辺地域との連携というのは、観光ではよく言われますが、掛川の場合には市単独で、強力に進めていくというのも一つの考え方ではないか、そう言うことが大切ではないかという意見がありました。</p> <p>あと KPI から見れば、SNS の発信回数などを指標として追加してはどうか。</p> <p>それから、目標値の水準の話ですが、観光交流客も令和元年の目標値が若干低いのではないかと。実績値と比べて上方修正した方がいいのではないかとというような意見がありました。</p> <p>具体的なアイディアは、観光客を呼び込むための具体的なアイディアが非常にたくさん上がっていますが、特に面白いなと思ったのが三つ目です。</p> <p>市民が市外の人や外国の人に交流したり、掛川の物産を市外の人に送ったりする場合、その中に掛川市を紹介するような、広報のパンフレット入れたり、手渡したり、市民が発信していくというような仕組みを作ったらどうかという、非常に素晴らしいアイディアだなというふうに思いました。</p> <p>あとは同じような観点ですけれども、掛川市を SNS で紹介するとき、うまい紹介の仕方を市民向けに講習会を開催したらどうか、というような意見もありました。</p> <p>こういった市民が主体となって情報発信していくというような観点は、非常に新鮮ですし、価値があるというふうに感じました。</p> <p>他にもたくさんの提案、意見があったかと思います。</p> <p>1-4 の掛川の魅力を売り込め、掛川流協働力によるプロモーションです。</p> <p>ここについての論点は、数値目標の上方修正を検討してはどうかというようなことが一点ありました。</p> <p>アイディアとしては、掛川の魅力や住みたいまちランキングで高評価を受けていると、こういったことも外に PR していくべきや、プロモーション動画、これは非常によくできているのですが、まだまだ認知度が低いので、これの認知度を上げていく取り組みが必要ではないか、というような意見がありました。</p>
会長	<p>今、重点施策 1 掛川への新しい人の動きをつくるということで、4本の事業について、それぞれ論点と具体的な提案について取りまとめの上、ご紹介いただきました。</p> <p>この内容について、これから皆さんと意見交換したいと思いますが、どういう事柄を評価書に残していくのか、あるいは、どういうことを具体的な次年度へのアクションとして提案していくのか、ということを皆さんと話し合いができればと思っています。</p> <p>一つの項目で10分ぐらいとなりますが、多分、濃淡はあるかと思いますが、一つずつやっていければと思います。</p>
	1-1 茶エンナーレから始まる掛川文化の創造

発言者	発言内容
会長	<p>取りまとめていただきましたので、具体的な提案についてご意見、或いはご質問をここで出していただきながら意見交換できればと思います。</p> <p>全てに関わってくるところで、KPI の問題がいくつか出されておりますが、そのあたりは事務局の方でどうでしょうか。</p>
事務局	<p>KPI につきましては、確かに今の実情と合わなくなっているところや、もうすでに目標値を簡単に超えているようなところもありますので、その辺は今年度、総合計画の見直しも行っていきますので、その中であわせて検討させていただければというふうに考えております。</p>
会長	<p>KPI がいくつか設定されていますが、内容的には今年度見直しを図られるというご理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>いいです。</p>
委員	<p>論点の中で、私が同じように思ったのは、茶エンナーレの目指すべき方向性で、市外の住民向けのプロモーション効果が高いイベントなどという部分です。</p> <p>お茶文化そのものは言葉にしたり、表現する仕方がまだ戸惑っているところはあるにしても、しっかりとこの地域に根付いているものがあると思います。それをブラッシュアップするときの視点として、外からどう見えるか。それから外から来た方に楽しんでもらう、という視点がとても重要と思います。</p> <p>地域おこしのいろいろなイベントというのは、中の人は楽しいけれど、外から見たときに、なんですか、みたいに終わってしまうものも多いので、これが力強く育っていくためにはシティプロモーションや観光交流課などの産業や経済の視点をもった枠組みの中に位置づけていくというのが大切だというふうに感じています。</p>
会長	<p>枠組みの変更についてはどうでしょうか。</p>
委員	<p>この重点政策の中では、人の動きを作るという話ですが、他のところのシティプロモーションであるとか、観光という柱が立っています。これと非常にリンクされるだろうということです。</p> <p>逆にシティプロモーションの中で茶エンナーレこそ、一番良いシティプロモーションではないかなというふうに思ったりするわけで、柱としては分けてありますが、実際の効果としては非常にそういった部分が高いということになるので、今から枠組みを変えるのはなかなか難しいのかもしれないですが、この評価書の書きぶりとして、非常にリンクしているところを、書いていただければ宜しいのではないかなというふうに思います。</p>
会長	<p>それでは、そのような書き方で、茶エンナーレで単独ということよりも、シティプロモーションを始めとして観光の面とも連携がとれるんだというような形で、評価に書き加えていただくか、もう一度ご検討いただければと思います。</p>
副会長	<p>冒頭の論点であげていただいておりますが、エンナーレですので文化ということを謳っている以上、どういった文化に繋がるか、あるいは創造できるかという視点が少し足りないかと思います。</p> <p>市民全員参加は、それも一つの文化かもしれませんが、1回目、2回目を見て、お互</p>

発言者	発言内容
	<p>いがつながらるような関連性がはっきり明確に見受けられてないので、文化という以上は、茶文化とは何かと書いてありますが、そのための方向性が、明確にあった方がいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そのあたりはすでにまとめていただいておりますが非常に大きな視点と思いますが、そのあたりが見えてこない、なかなか掛川の茶文化ということの目指すべき方向性が明確になっていかないと思います。</p> <p>そのあたりについても、評価の中にぜひ入れていただければというふうに思います。茶文化とは何か、掛川市が目指す茶文化というのは何なのかということをも明確化することですね。</p>
<p>委員</p>	<p>掛川文化は掛川市だけのため、掛川市民のために重きを置いてやっていくのか、静岡県内の他へも広めるのか、隣の神奈川県とか愛知県の方にも広めるのか。</p> <p>お茶を送ると、非常に美味しいと大評判で、お客さんの方が自分から頼んで買ってくれるというのが、うまく伝わっています。</p> <p>それはお茶の味ですが、お茶の掛川の独自の文化を発信していくのに、掛川で収めるのか、仕事の面とも繋がってきますが、もっと他にも上手く、そういうところまで発信の仕方を考えてみた方が、より掛川の活性化にもつながり、いいものになっていくのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>茶エンナーレを中心とした掛川文化の伝え方については、かなりシティプロモーションの一つとして使えますし、観光とかなりリンクした形で、使えるということでもありますので、そのあたりは論点でも提示していただいておりますし、具体的な提案の中ではいくつかでていきますので、その辺りも次年度へのアクションの中に盛り込んでいただいて、御提示いただければいいかなと思います。</p>
	<p>1-2 中心市街地活性化と多極ネットワーク型コンパクトシティ</p>
<p>会長</p>	<p>KPIは見直すということになりますが、他にご意見ありましたらお願いします。ここでは具体的な提案やアイデアが、いくつか出てきております。</p>
<p>委員</p>	<p>外部評価の意見番号の3番で、まちづくりを促進した結果、交流人口が増加すればよいことであって、という文言があります。</p> <p>産業面のところで、ここまで思い切って言えるというのは、一つの考え方ですから、これについて少し掘り下げてもいいというふうに思って読ませていただきました。</p> <p>ですので、中心市街地は誰のためのものかというところで、どこに重きを置くか、利用者を誰に置いていくかというところで、今、歴まち通りという話が出ていますが、掛川城までの通りは観光客を呼び込む通りだというふうに、特化してしまうということも、考え方が極端ですが、あるのかなと思います。</p> <p>中心市街地を、居住するところと考えるのか、交流人口増加のための地域として、シフトしていくのかは論点になってもいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>歴まち通りやアーケード通りの整備の方向性は、都市マスで位置づけられています</p>

発言者	発言内容
委員	<p>送っていただいた資料の13ページの12、13のところでは、</p> <p>13ページの一番上の番号がない枠があってその中にたくさん意見が書いていただいてあり、意見の内容が、1-1茶エンナーレの話ではなくて、中心市街地の活性化の話はずっとされているかなと思って、1-2と読み取っています。例えば、今の歴まち通りの意見が13ページのところに具体的にできるような形になります。</p>
会長	<p>歴まち通り、アーティスト通りという形で市は整備の方針を持っていますか。</p>
事務局	<p>中心市街地活性化計画などにいろいろ計画がありますので、その中と整合をとりながら、そういう方向で検討させていただければと思います。</p>
委員	<p>先日、金曜日に花鳥園の前を通ったら、花鳥園から車があふれ出るぐらいの人が来ており、土日のイメージしかなかった。</p> <p>中心市街地の活性化の中のお城の近くというイメージ。</p> <p>これだけ東名のインターチェンジと新幹線の駅が近いというのは、全国で掛川市が一番だと思っていて、そこに花鳥園があり、人の動きを中心市街地に絞るのもいいが、花鳥園にうまく広げていくのも、東名の降りたところに駐車場を作って行ってもらうなどでしょうか。</p> <p>仁藤の清水銀行と掛川信用金庫がある通りで、閉めた方もいて、歯抜けの状態が続いていると思いますが、そういうところを伊勢神宮のおかげ横丁みたいに、集約して、駅からお城が見えないところは何か別の住居系の再開発にするとか、そういう形ができれば、新幹線が止まって東名のインターチェンジがあって、というこの掛川が、お城を中心にうまいストーリーができないかと感じました。</p> <p>あと花鳥園の周りも、お茶発信するなら、あの辺に道の駅の小さい版を作って、花鳥園に来た人がそこによってというようなイメージもよろしいのではないかなと思います。</p>
委員	<p>中心市街地のところでもKPIの、店舗への出店件数や、1-4の空き家対策がありますが、5月15日号日経新聞に掛川、空き店舗をシェアオフィスにという記事が載っていて、非常にうまくいっている事例が載っている。</p> <p>まさに、ここに書いてあるNPOさんの活動が載っていて、中心市街地の空き店舗をシェアオフィスにして、それを活用している人が非常に増えていると、非常にいい取り組みで紹介されています。空き店舗や空き家というものをわざわざ区分けする必要もないかもしれないですが、中心市街地でリノベーションをやったら、非常に効果があるところを、もっとPRして、成果として堂々と言ってもいいかもしれない。</p> <p>この部分は、先ほど話が出たような新幹線駅に近いというのも、非常にプラスで、外からも人をオフィスに呼べるのかもしれないので、強化していったらいいかなというふうに思いました。</p>
副会長	<p>中心市街地の活性化は、今に始まったわけではなくて、もう数十年前から進めているが、結果として進んでいない。その中、掛川は東街区に138ができて、西街区を進めている。一方で、日坂に道の駅があって繁盛している。</p> <p>若い人の参加は、どうやったら喜ぶかという視点は、一般的な形での視点による集客の状況になっていると思うので、その辺の工夫がいると思います。</p>

発言者	発言内容
	新しい形については、某銀行が物件を建てて、その中に子供の遊び場があるような作りですが、何かそういった形で若い人に来てもらい行きたくなるようにものがないと、ただ、人を集めますといっても、人は集まらないと思いますのでその辺の検討をお願いします。
会長	アミューズメント性を持たせながら誘致も難しいが、そういう意見もあるということをお願いします。
	1-3 市民総ぐるみのおもてなし観光客誘客促進事業
会長	<p>こちらにも主に観光ということになります。</p> <p>先ほど、委員からの提案等で紹介がありましたが、市民が市外、国外の人と交流したり、掛川の物産を送ったり、掛川市を紹介する機会に情報を市民から発信してもらおう。</p> <p>これは非常に具体的な取り組みだと思いますが、この場合、広報パンフレット等を市から提供していただくということになりますが、何かそういう受け皿はありますか。</p> <p>掛川の場合、ガイドボランティアみたいな方々がいて、そういう方々を中心にして配布するみたいなことはありますか。</p> <p>掛川に観光ボランティアはいますよね。</p>
事務局	観光協会などで多少はいるので、そちらとの連携でどうできるのかを検討します。
会長	どういったところを仲介してということで、他にも何かアイデアがあるかもしれません。
委員	<p>意見では、修学旅行生が掛川茶や市の広報パンフレットを用意して、海外などへ修学旅行に行ったとき、それを配布しながら触れ合うとか、商工会議所、農協さんのご好意でプレゼント品を持っていったということが書いてありました。</p> <p>もう少し市民全体に広げたら、市民総ぐるみということになるのではないかというようなご意見で、非常におもしろいと思いました。</p> <p>他の町でこういうことはあまりないだろうということで、高校生でうまく市民に広げられたら面白いなって思いました。</p>
企画政策部長	<p>おっしゃったのは、中学生などが修学旅行に行くとき、掛川茶の一選茶パックという掛川のお茶振興協会が作っているものがあり、各校に渡して、行った先で一般の方に渡していただくということをやっています。</p> <p>あと取り組みとしては、ふるさと納税制度があります。お礼の品を送付するときに、掛川市の紹介のパンフレットを委託業者が箱詰めするとき一緒に同封して、希望していただいたご家庭にお送りするようなことを4年ぐらい前から進めています。</p> <p>今、言っていたことをどのように広げていくかということなので、プロモーション事業との関連も強いので、よく相談をしたいと思います。</p>
会長	外国人の観光客が増えてくる可能性があるのですが、サインの多言語化もあります。入ってくる方は韓国、中国が多いですか。
企画政策部長	国の統計と同じように韓国、中国のお客さんが多いです。
会長	韓国、中国からの観光客向けに工夫していることはありますか。

発言者	発言内容
企画政策部長	<p>まだ具体的な取り組みにはなっていないですが、昨年度、掛川市の観光振興計画を策定しました。</p> <p>その中では、多言語化が非常に重要であるということで、サイン案内等の整備を進めていくという計画になっています。</p> <p>それから9月10月に行われる、ラグビーワールドカップで、今、掛川市の観光協会で、ウェルカムラグビーファンという様なペーパーを飲食店の前に張りだしたり、あとはいろんな言葉が多言語になっていて指をさして、双方のコミュニケーションを取るというものを、中心市街地を中心に配布して、できる限りのコミュニケーションを図ろうというようなことを進めています。</p> <p>JRはボイストラを使ったり、ポケトークを使ったお店が増えたりしていますが、掛川市は昔ながらのやり方ですけど、紙にそういう言語を書き記して、指でさしていただくというふうにしています。</p>
副会長	<p>観光客は、掛川に観光で来るのか。</p> <p>静岡空港との通過点に過ぎないか。</p> <p>誘客と言っている以上は、見に来てくれる人だけでなく、来てくれることによって、消費の拡大に繋がる必要があると思いますので、そういった人を迎えるための仕組みも考えないといけない。</p> <p>例えば中国のお茶の産地は、お茶を売るための施設というのは結構充実している。必ず観光バスはそこに行って、買わせる仕組みになっている。</p> <p>世界農業遺産になって茶草場と言って売り出していますが、そのことについての取り組みが今のところ見受けられない。</p> <p>せっかく世界農業遺産となり、他と差別化されているので、それはもっとうまく使う必要はあると思うし、やってほしいと思います。</p>
事務局	<p>中国の大学生が県に来ますが、掛川にもよっていただく。そんな中で、農業遺産を見てもいただいたり、ろう人形も大東図書館にできましたので、そちらも見ていただいたりということで、なるべくポイントポイントに寄っていただくような政策を行っています。</p>
会長	<p>海外の観光客が移動手段としてタクシーを使うが、タクシードライバーの言葉の問題があると思います。コミュニケーションがとれるツールがきちっとタクシーにも備えておいてもいいと思います。通訳機が発達している。タクシードライバーも高齢化しているので、なるべく早く整備していった方がいいと思います。</p>
	<p>1-4 掛川の魅力を売り込め 掛川流協働力によるシティプロモーション</p>
委員	<p>1-4については、少しの意見が限られたデータということで、論点が一つしかなくなってなかったですが、私の意見をお話させていただければ、人口の維持増加を目指している掛川市にとって、柱というのは非常にもっとも直接的に影響がある重要な重点プロジェクトだと思います。</p> <p>それで他の地域も、今非常にたくさんのシティプロモーションや移住定住の促進策をたくさん行っていますが、本当にどんな施策で効果があったのか、なかったのか。それをもう少し詳しく、短期的には効果があるけれども、長期的な定住に繋がっている</p>

発言者	発言内容
	<p>かどうかとか、そういったことを、これから十分分析しながら、政策をブラッシュアップし、精度を高めていく必要があるのではないかなと思います。</p> <p>例えば、ある地域でお試し移住で移住したらこのぐらいの助成金を出すと言って始めて、その時には10世帯以上世帯が来たとしても、数年経って、残っているのは数世帯しか残っていないという事例があるようです。</p> <p>それも、検証してみなければわかりませんが、そういった一時的なお金だと、またすぐに出てしまうというようなことがあるのかもしれない。移住、それから最終的に定着してもらうというのも非常に重要なことなので、移住するにはこういう政策、それから、その上で定着してもらうにはこういう政策とか、そもそもこういう人を呼んだら定着するとか、まだこの政策が始まったばかりだと思いますので、他の地域もいろいろな事象が見えてきた中で、分析しながら施策の精度上げてくるという取り組みは非常に重要かと思います。</p> <p>それぞれ課題や今後の補正などを分析していただいています。全体として、そういった分析、精度を上げる、そういう検証が重要になってくると思います。</p> <p>特にそういったトライアンドエラーの世界になってくると思いますので、継続的にノウハウを貯めていくような体制づくりというのも、一方で必要だと思います。</p> <p>行政だけでやっていると、担当者が変わると、そういった継続的なノウハウの蓄積というのは難しいのかもしれませんが、うまく仕組みを作って、考えてほしいと思います。</p>
会長	<p>修学旅行生のお茶を持って行く事例は、市民レベルのシティプロモーションだと思います。市民の皆さんが自分の住んでいる町の良さを発信していくことが、大きなシティプロモーションだと思います。</p> <p>1-3に書かれているアイデアはシティプロモーションと関わってくると思うのでうまくまとめてください。</p>
委員	<p>1-3の県の中東遠地域と言われるところで、必ずしも観光に力を注いできたところではないと思います。県で推進していたDMOもこの地域はまだできずにいると思います。浜松、浜名湖の方はできましたが、そうした周辺にあって、希望の星は掛川市だと思います。</p> <p>評価書の6番で、もちろん周辺のことやりながら、そういう研究や連携関係というのも考えていかなければいけないが、やはり、シティプロモーションや観光という立場でいろんな条件で優位性を持っているのが掛川市ですから、単独でリードして、一つの成功事例みたいに牽引していただけることを期待して、市内の文化資源なども生かして、成功事例になっていただきたいと思います。</p>
副会長	<p>シティプロモーションなので単なるPRや情報発信ではなく、シティプロモーションをやる目的は掛川に来てもらい定住、移住してもらうことがポイント。同じPRにしてもここにつながるようにしてもらいたい。</p> <p>単なる観光案内やPRだけでなく、方向性を持った仕組みを入れた方がいいと思います。</p>
委員	<p>単なる観光ではなくて移住定住にどう繋げるかという、全体に繋がってくると思</p>

発言者	発言内容
	<p>ます。その観点として、どういう人をどう呼ぶのか、的を絞ってシティプロモーションなり移住定住というのが、これから重要と思います。</p> <p>例を言いますと、すごい数のお城を好きな人がいたとして、そういった城好きの人に対して掛川城がいつも見えるような、住居を用意するなどをすると、多分すごいと全国からすごく濃い人が来る可能性がある。</p> <p>この趣味というのは本当に時空を超える。</p> <p>値段も関係ない、距離も関係ないということで、その人たちはすぐ他のところへ出て行くということはないと思いますので、掛川の資源とそれを本当に好きな人をどういうふうに作っていくか、という観点がこれから非常に大事な観点になるかなというふうに感じます。</p>
戦略の柱 2	掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする
委員	<p>2-1 のみんなが働ける掛川創造事業という、障がい者の就労促進、女性の働きやすい環境作り、若者を初めとする就職困難者への就職支援等を実施していることで、ここが一番の走りの重点的などこだと思われます。</p> <p>その中で、障がい者については、いろんな KPI や指標が具体的に出ている中で、女性がどれだけ働く方が多くなったのか。その辺の計数、数字がない。若者もどうなのか。</p> <p>人数的なところは、障がい者のところが非常に重きを置いて、女性と若者のところがこの資料からだ読み取りにくいというのが一番最初に読ませていただいて思いました。</p> <p>あと、中東遠タスクフォースセンターの会議に出ましたが、タスクフォースセンターも人手不足で、全部に対応できないというようなことも出ている中で、30 年度の目標が 200 件のところ 127 件で止まっていて、このまま走っていくのか、もう 1 回見直すかというところを考えた方がいいと思いました。</p> <p>あと参加委員の方からのご意見の中で、障がい者の実績は 830 人の目標に対して 1,110 人ということが多くなっていますが、その中で 1 年以上の定着率は約 30% ということで、それをそのまま 1 年未満の人の数も入れて、これを実績として発表していいのか。</p> <p>あと、この人たちがどういう理由で長期雇用できなかったというところまで、分析し発表した方がいいと思いました。</p> <p>あと、外国人の就労資格の研究検討を加速させていくということで、外国人労働者の数が掛川は大分増えていると感じています。</p> <p>この辺も掛川市として、どのようにフォローしていくか、しっかり受け入れ体制を考えていってもらえればと思います。</p> <p>あと、みんなが働けるということで、一番は掛川西高校の生徒が大学へ行って掛川に戻ってきてくれということを感じての試みですけど、高校生、中学生でもいいかもしれませんが、海外に拠点を持っている企業にみんなで見学させていただくような形を何か市として企画して、そういうありがたいことをやってくれたということ胸に刻んでいただいて、掛川市に就職してもらおうという形で、若い人に海外を見てもらう</p>

発言者	発言内容
	<p>というのをやってみたらどうかと思いました。</p> <p>2-2 仕事を生み出すイノベーションの支援ということで、創業支援というのはとても大変な課題で、それを掛川市でこういう形で取り組んでいくということは非常に素晴らしいことだと思います。</p> <p>一つの例として、件数の把握はどういうふうに行っているのかというのを市の方にお聞きしたい。</p> <p>どういう形で一件、しかも女性の創業者という形でカウントされていくのか、いただいた資料の中からは読み取れなかったです。</p> <p>融資が絡めば金融機関になると思いますので、掛川市の各金融機関から新規で創業した案件があったらどこかを窓口にして報告していただいて取りまとめをすとか、具体的に業種なども出していい方でしたら、そういうものもアナウンスしながら、盛り上げ策が欲しいと思いました。</p> <p>あと、取り組みで、地場産品を活用したベンチャー企業の発掘というところで、事業費がゼロで、人も0.12人工、これで何かをやろうとしているということが、寂しい感じがして、いくらでもいいから予算をつけて、もう少し人を割り振らないと盛り上がっていかないのではないかと思います。</p> <p>あと、テックビート静岡をグランシップで、東京のベンチャー企業を呼んで、静岡県内の企業といろんな共同開発をしてもらおうということで新しい仕事を生み出すという試みがあります。</p> <p>静岡県で唯一先行スタートした事例として、掛川の丸山製茶さんが、お茶を入れるポットに静脈を当てると、その人の健康にあったお茶が出てくるというのを考えていくそうです。</p> <p>掛川の中だけで創業や新しい分野を作っていくというのはなかなか大変だと思いますので、外部機関ともう少し連携するところを具体的に落とし込んでやっていくのがいいと思います。</p> <p>あと、先ほどのように、地域の皆様にオープンにして、こういうマッチングの仕方があるとか、既存の事業主の方にも、新しいものに挑戦する意味で、オープンにしていってもらいたいと思います。</p> <p>あと、4番の農業とも関連しますが、さつまいもを干し芋にして作っている法人があり、父の日と母の日にそれを花と一緒にセットにして販売しているのが、楽天の販売でナンバーワンという企業が大須賀にあるそうです。</p> <p>何と何をくっつけたら面白いかな。お茶屋さんの抹茶と何かをくっつけても面白いかもしれないし、そういうものを戦略的に何か話し合うような場を、この創業支援相談もやりますが、既存の企業が新しいことをやりたいということで企業同士のお見合いが、掛川市も含めた形でできていけば仕事を生み出すイノベーションというところに繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>あと創業先の成長支援ということで、創業したからいいということでなく、5年ぐらいはフォローしていくとか、市としてどういうフォローができるか。創業した方をうまく軌道に乗るまで大事に支援していくということも謳っていけば、思い切って</p>

発言者	発言内容
	<p>やってみようかという方が増えていくのではないかなと思います。</p> <p>次に、2-3の掛川市の新たな開拓内陸フロンティアと企業誘致です。</p> <p>ここは金融機関が積極的に関わっていきたい分野だと思います。</p> <p>この目標と実績というところで、4件の目標に対して、11件の企業誘致件数とありますが、本社が掛川にある会社なのか、本社は東京や他県、掛川市以外にあって、倉庫とか、工場を作ったというだけなのか、どういう数なのかということと、とにかく他県からでも呼ぶということに重きをおいての目標なのか。</p> <p>そうだとしたら掛川市内の中小企業や、そういうお客様にとっても、企業の工場の移転に取り組むのが置き去りにされてないかなというのが、この資料で非常に感じました。</p> <p>いろんな予算をつけていただいて、人もつけていただいておりますので、先ほどのまちづくりにもつながると思いますが、中小企業の方に言わせれば、自分たちが先に工場を建てたけど、周りにどんどん家が建ってきて今は振動が気になるとか、臭いが気になるとか、うるさいとか、そういうことを言われて、特にプレスの方たちは非常に苦慮をしている。</p> <p>そういう方はそれほど大きい面積は必要なく、1500坪から1000坪ぐらいの土地があれば移れるという中小企業の方がいます。</p> <p>しかし、ほとんどそういう土地はないそうです。</p> <p>そういうところを行政で、掛川市の中小企業が他の市に出て行かないように、500坪から1000坪ぐらいのオーダーメイドの移転ができるようなものを、目標の中に地元の中企業に対しての係数を入れてくということも必要ではないかと思います。</p> <p>あと、その中で補助金の問題などがあり、建物の価格で今5億以上でないと県からの補助金をもらえないなどがありますが、もし住宅地から工業を集約したい地域に移っていただくことによって、今まであった工場が住宅に変われば、そこに家が建って人が増えて、周りの環境もよくなるということであれば、ある程度の補助金を出してもいいのではないかなと思います。</p> <p>掛川市の地図を見ていただければ、市の住宅街の真ん中に工場があるというところがいくらでもあるので、できれば行政の方からもピックアップして声をかけてどこかに集約し、そこを住宅地に変えてくということをお願いしてはどうか。</p> <p>地元の中小企業の工場の移転をやっていくことで、雇用ももしかしたら増えるかもしれないし、移った先に新しい住宅が建って人口が増えていくというところをぜひ考えてもらいたいと思いました。</p> <p>最後に2-4農業ビジネスの推進です。</p> <p>掛川はまずお茶ですが、それ以外の農業をやっている方に対して、いかなる支援ができるかというところを深掘してやっていったらどうかと思いました。</p> <p>中には、今までにない物で、農業の方が役立つものを考えている社長さんもいますし、掛川の農業がお茶だけでなく、他の農業にもプラスになり、広がっていくという形のものになっていけばと思います。</p> <p>いろいろな各市町村の道の駅で、農産者が自分の名前を出して、野菜などいろいろ</p>

発言者	発言内容
	<p>作ったものを置いてということで、豊岡村の元気村というところで、朝早く行かないと活況で売り切れてしまう。みんななぜ買うかという、東京とか神奈川とか知人に郵便で送るそうです。</p> <p>ですから、農業の方の支援の中には、最後、販売ルートのお手伝いというものが非常に重要だと思っていて、その販売ルートの中で、道の駅を使ってもいいしJAさんにご協力いただいてもいいですが、首都圏の方に掛川の農産物の箱のセットを作って、お茶と一緒にセットで、掛川のいろんなセットにしたものを考えて、掛川だけでなく、他の市、他の県に発信していくといいと思います。</p> <p>あと KPI の計数のところに数字が載っているわけですが、今までと同じように物をつくるだけでは、農産物は売れないので、花とセットにしたり、抹茶とコラボするなど、そういうものを考えるのを、中東遠タスクフォースなどでできれば、そこに農業の専門の部署を作って、どこかの農家さんとどこかの農家さんをマッチングさせるとか、新しい農業のビジネスができれば、さっきの創業支援と同じような扱いで、力を入れてやっていけたらありがたいと思います。</p> <p>あと、お茶を世界に広げていくで、海外へ輸出しているお茶屋さんも先行して何社かいますが、地元のそこまでの規模にいかない生産者の方のお茶や、抹茶を海外発信できる、輸出できるような、支援もやっていけたらいいかと思いました。</p> <p>あと掛川茶ひろめたいというのが 39 ページのところに出ていて、結構な予算かけていますが、東北地方での掛川茶ひろめ隊活動を 5 回ということで、この東北に広めに行くというところが、なんで東北なのか教えていけたらと思います。</p> <p>首都圏で広めるといふ方が皆さんのお口に入れていただく面ではいいのではないかと思います。</p> <p>あと池島フーズさんの茶そばを皆さん食べたことあると思いますが、掛川に工場があり、その社長と話をしたところ、池島フーズの抹茶は掛川の抹茶ではないと。</p> <p>京都の宇治などで仕入れている話を聞き、ぜひ掛川の抹茶を仕入れてくれということで、今地元の業者さんを紹介して検討してもらっています。</p> <p>抹茶やお茶を商品にしている食品の製造工場が、掛川に何社あるかわかりませんが、地元のお茶、抹茶を使っただけのように、もう少し情報が入るようにして、その情報から地元のお茶の生産者の方にアナウンスしてビジネスマッチングができれば、さらに外にアピールできる係数になっていくのではないかと思います。そういうビジネスマッチングの件数みたいなものも公表して見てればどうかと思いました。</p>
	2-1 みんなが働ける掛川創造事業
委員	<p>女性に対する政策の関係で、質問の回答を産業労働政策課がしてくれています。</p> <p>静岡労働局等の雇用対策協定において進めているということでしたので、ぜひここに女性に対しての何かをやっているというのが表現されていないともったいないと思いますので、ぜひ入れられたらいいなと思いました。</p> <p>それからもう一つはタスクフォースセンターのあり方です。</p> <p>他の委員の言葉に必然的な関わりを見出していくことが必要とあります。</p> <p>それから、具体的にどこと繋がっていけばいいかというようなご意見も書かれてい</p>

発言者	発言内容
	<p>ますので、私もタスクフォースセンターを必要とする顧客をどこに見出すかを再確認すべきではないかという意見を書かせていただきました。</p> <p>やはり、どこに向かってやっている事業なのかというのが、読みづらいところがあって、似た支援策とかアドバイスをする機関は世の中に多いと思うので、どんな部分をターゲットとして、目指していくのかというところが一層明らかになると、この事業自体への理解も深まるのではないかと思います。</p>
会長	<p>障がい者の就労関係のところはいろいろと取り組まれているということで指摘がありましたが、1年以上の定着率が非常に低い。</p> <p>なぜなのかといったあたりは何かございますか。</p>
健康福祉部 政策官	<p>障がい者の定着率が低いという理由で、これは障がい者の方のご本人の事情もあり、一概にこれが原因とは言い難い部分がありますが、障がいのある方の特性が様々ですので、掛川市としては伴走支援といいますが、就労支援を共に寄り添って進めております。</p> <p>就労の意欲ある方は非常にたくさんいらっしゃるのですが、そういう方の思いをできるだけ叶えるために、就労支援員が支援を行っています。その中でどうしてもうまく就労がいかないということで、途中でやめてしまうというケースもかなり多くありますが、障がいがある方でも一般企業に就労して皆様と同じような給料を得て幸せに暮らせるという風に行っていきたいと考えております。</p>
会長	<p>障がいごとにそれぞれ特性があるので、難しいですね。</p>
委員	<p>この 830 人の目標で 1,110 人というのは非常に立派な数字だと思いますが、そのうちの 7 割の方が 3 ヶ月とか半年で辞めているのに、目標達成 AA ということでよろしいのかということです。</p> <p>その中身を検証して、6 ヶ月の人は 0.5 人カウントするとか、そういう形にした方がやっぱ外部に出すためなら、そこは障がい者というところを考えると、そこはそういう形でやられた方が丁寧ではないかなと思います。</p> <p>あと、中東遠タスクフォースセンターの会議に出て、そのときわかったことですが、補助金を取るための支援をした場合に、中東遠タスクフォースセンターは 1 割程度、補助金から費用をいただくという制度になっているそうです。金融機関とか商工会議所が携わると事務手数料や他の先生に頼んでも数万円ぐらいで済む。</p> <p>同じ補助金で 1500 万もらうとタスクフォースセンターを通すと 150 万払わなくては行けなくて、金融機関に頼むと数万円とか 0 円でもいい。その差があるものをどっちがいいかって言えば、わかっている人だと普通、商工会議所や銀行行きますよね。</p> <p>だからそういうところを、もう少し商工会議所とか金融機関とかタスクセンターで、同じような形に持っていかないと、タスクフォースセンターのそういうのがわかればわかるほど、どんどんじり貧になってしまっただけで何のために作ったのかという感じになってしまうのではないかなという意見が出ました。</p>
	<p>2-2 しごとを生み出すイノベーション支援支援</p> <p>2-4 明日を拓く農 農業ビジネスの推進</p>
会長	<p>イノベーション支援で、まず 33 ページの KPI の①の認定商業件数の把握の仕方が</p>

発言者	発言内容
企画政策部長	<p>だいた生産者の高齢化が進んで耕作放棄地が増えて、お茶畑が荒れているというのが現状かなと思います。</p> <p>それからそういう中で、掛川市のお茶の関係について言うと、掛川茶振興協会を中心に、昨年度は乾杯条例や、品質を高めていこうというような掛川茶の定義の見直しを行ったり、若干ですがそういった取り組みも行っておりますが、具体的に茶価を高めたり、あるいは抹茶の話が出ましたが、そういう生産手法が別のやり方があったり、あと有機農法、それから海外輸出の関係を睨んだときの有機農法の導入とか、そういったものも、これから組織的に対応していかなければいけない内容だと思います。</p> <p>掛川茶振興協会に対応していくのがいいのか、あるいは別ものが必要になってくるのか、そういったこともきちんと研究をしていきたいと思っています。</p>
副会長	<p>抹茶の使用料について話がありましたけど、これまでは急須でお茶を飲むという形がメインだった。</p> <p>それがペットボトルに変わって、急須で飲むという認識がなくなりつつあるので、お茶の消費量が全国的に減っているわけですよ。</p> <p>だからどこに販売するかというと、海外と言いますが、海外のお茶の量についての情報が少ないし、今まで急須で飲む利用量を、そういったところでまかなえないかと言った場合、厳しいと思う。</p> <p>だから抹茶という一つの素材がありますので、抹茶によるいろんな新しい形の生産物を作ったりして、抹茶で販売するとか、必要ではないかと思った。</p> <p>どっかで変えていかないと、今までのお茶を売る関連から多分脱却できないと思います。</p>
企画政策部長	<p>今までのリーフ茶を飲んでいただくために売るといふのがあるのかもしれませんが、お菓子に混ぜたり、いろいろな使い方をさせていただいていますので、これから需要が広がっていく部分かもしれません。</p> <p>市内の農家さんの中にはそういったものを専門にというようなことで、少し動きがあるようではけれども、まだまだ利用としては十分ではないと思いますので、十分踏まえていきたいと思っています。</p>
委員	<p>今、お話を聞いていて、この仕事を生み出すイノベーションで創業支援というところにスポットが当たっていますが、お客さん同士を繋げて、抹茶と何かをくっつけるとか、仕事などでもビジネスマッチングをするとか、そういうところをしていった方が掛川市の人にこういうことをやっているというものが、もっと肌で伝わっていくのではないかなと思います。</p> <p>あと、創業支援ということで企業を増やすということを考えていますが、相続事業承継で農業もそうかもしれませんが、跡を継ぐ人がいないという方たちに対して、どういった支援ができるか、事業だったら、今までどおり売ればいいですけど、農業だとお茶を今まで作ったけど私はもう作らないからお茶を作ってくれる人がいれば、その人に任せて事業さら売なのか、茶畑さら売なのか、事業だけやってもらうのか、いろいろそういう面でも、お茶の文化を守るため、6次産業を含めての相続事業承継で掛川市の事業者数を減らさないと、そんな取り組みもしていったらいいのではないかなと思</p>

発言者	発言内容
	いました。
会長	とてもいいアイデアだと思います。 それは取り組みの方のアクションを盛り込んでいただければと思います。
委員	お茶広めたいは何故東北ですか。
企画政策部長	五、六年前からお茶広め隊という活動をスタートさせたとします。 もともと東北地方が、あまり緑茶を飲む習慣がないというところが一つ。 それからもう一つ岩手県に奥州市という姉妹都市があったということ。 お茶の関係でお付き合いのある市があり、そういうところに最初に入って紹介をしていき、関係する周辺の自治体にセールス、あるいは商工会議所等にセールスに行ったというのがスタートです。 経済的な効果としては首都圏に販売した方が大きいのではないかというようなご意見もありますので、戦略を見直していきたいと思います。
会長	予算から、アイデア的なところまで意見をいただいていますので、そのあたりをうまくまとめていただければよろしいと思います。
	2-3 掛川市の新たな開拓 内陸フロンティアと企業誘致
会長	内陸フロンティアと企業誘致についてどうでしょうか。
委員	今の掛川市で工場用地として紹介できる一覧表でありますか。
企業誘致推進室長	提供できる一覧表はあります。
委員	銀行に提供してあげてください。
企業誘致推進室長	わかりました。
会長	今の話でもそうですが、やはり金融機関との連携はどうしても必要になってくると思うので、これからも密にさせていただくことは必要でしょうね。 情報をどんどん提供していただいて、お互いに交流していただくという観点でお願いしたいと思います。 あと先ほど掛川市には 500 から 1,000 坪程度の用地があまりないというお話でしたが。
企業誘致推進室長	今そういった要望もありますが、すぐ提供できる用地は、市の方で今のところございません。
会長	そのあたりがマーケット上、ニーズあるということですね。
企画政策部長	そこに建てたくても建てられないとか、あるいは都市計画法上の用途地域の不適格建築物ということで、そこにもう一度立てられないとか、そういったもろもろの理由があると思います。 今言っていたことを、制度設計をすることは、いろいろな関係機関と、いろいろな方を含めて、ということになります。用途のこと、住宅のこと、あるいは用途内の用地の関係のこととか、いろんなことがいっぱい出てくると思いますので、いいご提案をいただきましたので、庁内でも横断的に少し行ってみたいと思います。

発言者	発言内容
委員	<p>ぜひ、そういうものを落とし込んでいただいて、みんなが住みよいまちづくりをするために、住宅と工場用地を綺麗に分けるとい、長期的に取り組むものを、掛川市としてやってみるだけの価値があるのではないかなと思います。</p> <p>ぜひ前向きなご検討をよろしくお願いします。</p> <p>あと補助金も知らない地元のお客さんが多いので、オープンにさせていただけるように、何かアナウンスしていってもらえればと思います。</p>
戦略の柱3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
委員	<p>3-1の②の施策で、放課後等教育支援掛川モデル推進事業、この中身に関して、委員の意見の中に達人による体験会的な集いも良いけれども、日常的な居場所作りのニーズも当事者には高いので、ニーズ調査の結果に沿った事業計画をお願いしたいというご意見が出ています。</p> <p>それから、いろんな事業をやる中で保険の扱いに迷うという、保険について取り上げています。これは、安全のことですね。プロジェクトの概要としても、小学生の放課後の安全で健やかな居場所を確保するというふうに上げていますが、安全の考え方というのが子供にとって、というのが一つあるかなと思いました。</p> <p>もう一つは、担当課の皆さんが推進する中で、地域資源を最大限活用するとか、総合的な放課後等の教育というふう非常に大きいことをイメージとして謳っていますが、もっと日常的な居場所作りというような視点が大切なのではないかとこのころで、少し考え方の齟齬を感じました。</p> <p>ですので、論点として、市の目指す姿と市民ニーズの間に乖離はないかということをもう一度確認するということ。</p> <p>それから、そもそも子供にとってストレスを感じない場所というのはどういう状態かということも、事業考をえる上で必要な視点と思いました。</p> <p>次は③の白熱サイテック教室の開催です。</p> <p>これは本当に惜しむ声が強くて、子供たちにも好評だけれどやれなくなった理由として、協力企業の負担が大きいことと、事業効率が悪いという理由です。</p> <p>やはり意見にあったように、これだけでやると本当に弱い事業になってしまうのですが、重点政策の2との関係をつけたり、他の政策と絡めて、何とか存続できないだろうかというものがあります。論点に書きましたが、他の重点施策への位置づけを持たせて、次年度以降復活させる方法はないかという投げかけを書きました。</p> <p>それから、その下の茶エンナーレに書かせていただきましたが、単独事業では協力する企業にとっても、例えば広報的な効果がすぐ見込まれるとか、そういったものが張り付いてこないとなかなか、各社社内で説明するときも、難しいと思うので、そういった大きな骨太の事業に貼り付けるような形で復活できないかというところです。</p> <p>次に、3の2子供は地域の宝の重点プロジェクトです。</p> <p>一番の子育て世代の居住環境支援。これは去年もかなり論議を呼んだようにも思うのですが、政策の中身自体がどこを向いているのか本当に効果があるものなのかという疑問の投げかけが意見として出されているように思います。KPIを見ても、目標と実績がD評価で離れている。</p>

発言者	発言内容
	<p>ですから、これは事業自体を支援する対象を明らかにした上で、改めて制度設計が必要ではないかと感じています。</p> <p>それから街中のにぎわい創出の施策の一つとして、子育て世代への優遇策を打ち出せないか。これも一つ論点になってくる。</p> <p>それから、②の地域における子育て支援事業です。</p> <p>4番の意見を言ってくさっている方が、非常に強力に地域子育て支援員の設置ということを主張しています。</p> <p>この具体的なイメージができなかったのも、うまく組み立てられなかったのですが、この地域子育て支援事業における、市の役割というのは何なのかというところなんです。</p> <p>支援員を柱に置くことで、いろんなことが解決できるのではないかと、4番の意見での投げかけですが、こういった考え方について、担当課ではどんなふうにとらえているのかというのを伺いたいと思いました。</p> <p>それからさっき出てきたのと同じように、日常的な支援、これが大切。</p> <p>それからイベントに参加したくてもできないような家庭の事情がある保護者への支援も大切なのではないかと意見が出ています。</p> <p>それから、3番の地域主催の体験イベントを通じた世代間交流というところで、取り組み実績があった23地区に関しては本当によくやってくさったという評価が出ています。</p> <p>けれども、各家庭にまだ情報がうまく伝わっていないのではないかと、この投げかけがありました。いろんな情報が世の中にはあるけれど、そこまでたどり着けないとか、接点がなく、孤立してしまう母親ということを問題視していて、孤立する母親を生まない取り組みが必要だというふうにも5番のところでおっしゃっています。</p> <p>これについては担当課でも情報発信をさらに進めるという言葉がありますので、方向としては一致しているとは思いますが、ここまで見てきて、委員の意見を読んでも、想定する家庭像が委員でも違うし、本当に多様にあるのだろうなと思います。</p> <p>ですから、このあと3-3のところでも申しますが、事業対象となる家庭への的確な情報伝達手段というのを、どうしていくかというところが見直されるべきだと思います。</p> <p>それからいろいろな事業が並列的に並んでいるような気がするのですが、それぞれの事業の関係性を、今一度整備する必要があるのではないかと。もしかしたらちゃんと整理されていて、この評価書では反映されていないというだけかもしれないのですが、課題と思いました。</p> <p>次に、3の3、家庭の子育て力教育力向上プロジェクトです。</p> <p>これも一番の子育てコンシェルジュ事業で、コンシェルジュの役割の重要性というのは委員の皆さんもかなり強く言及されています。</p> <p>大切な役割で、そこが頑張ってくれば保育園とか、そちらの負担軽減にも役立つという効果も言われています。</p> <p>ただ、ここで数値が下がった理由が、51ページになりますが、今回、同じD評価で</p>

発言者	発言内容
	<p>すが、29年に800件だったのが30年は757件に減ってしまった。</p> <p>その理由が、対象となる0歳児の保育園入所の増による、というふうに書いているのですが、納得してない方がたくさんいらっしゃいます。</p> <p>委員の意見のところを見ると、これはちょっと？なのではないかと。</p> <p>加えて、意見で目標値の再設定が必要なのではないかとされています。次に政策の三世帯同居等支援事業です。</p> <p>これは昨年私も質問していて、やはり違和感があります。</p> <p>2番の意見で池島委員がおっしゃっているところで、子育て世代が安心して就労し収入を伸ばすことが出生率の向上に寄与すると、この事業の助成金はこういった費用対効果を見込んでの金額なのか、どれくらいの効果が出ていると感じているかという、この問いかけは、違和感から来ていると思います。</p> <p>4番の意見でも、本事業により市の目指すものが市民にわかりやすく伝わるようにお願いしたいとあります。</p> <p>担当課でも他の住宅関係事業を含め、事業のあり方の検討をし直すとして書いてくださっているので、改善が今後されていくと思いますが、やっぱりしっかりこない事業だなというところがあります。</p> <p>論点で特定の家族経営形態を推奨することによって書いてありますが、これは今回の論点ではないです。ただ、違和感が根底あるかなと思って。</p> <p>それから、3番でスマホを活用した子育て情報の発信です。</p> <p>実態に即したご意見が出ていて、センターに通い始める前の月で親はネットから情報求めている。</p> <p>それから、私立の幼稚園については情報が少ないという、現実的なご意見がありました。情報発信をさらに進めるというのはわかりますが、先ほども言いましたように、事業によって細かくどういう家庭のどういう母親にどういうふうに伝えていくのか、相関図のようなもので、もう少し整理されてもいいのではないかと感じております。</p> <p>次が3-4企業の子育て力向上プロジェクトです。</p> <p>2番の意見で、55ページに記載があります。</p> <p>働きながら子育てをする全ての労働者を対象としているはずですが、KPIは正社員への取り組みを評価しているように感じつつ、というふうに書かれていて、こういう立場の人もいますよね、ということを実際に細かく書いていただいています。</p> <p>論点のところをご覧くださいますと、掲げている事業対象というのは、非常に広いわけですね。</p> <p>それに対して施策として展開しきれていないような印象を持ちました。</p> <p>この分野は、展開の仕方が非常に難しく、あるべき理想像というのは見えるのだけれど、それを国でも県でも似たようなことをやっている。</p> <p>重複感があると思います。解決すべき構えの大きさと、予算規模を見る一般財源のみで、予算規模として十分にできるものが確保されていないという印象を持ちました。すぐには難しいとは思いますが、そのことを全体としてとらえています。</p> <p>個別に政策の仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しのところで、相談という受身</p>

発言者	発言内容
	<p>の体制ではない事業へ方向転換してはどうかというのと、それから男性の働き方改革を意識してはどうかというところがありました。</p> <p>それも多分認識されてはいると思いますが、この評価書ではあまり感じられないという意見だと思います。</p> <p>もともとこれを感じたのは、53 ページに連携主体及び連携の方向性ということで社労士会を挙げてくださっている。</p> <p>多分これは精神論とかではなく、もともと各企業における制度というか、仕組み作りの支援を念頭に置いて組み立てられるべきプロジェクトではないかというふうに思いました。</p> <p>ですから、各企業の仕組み作り、制度作りにどう市が支援していくか、あるいは啓発していくか、という立場で掘り下げるべきプロジェクトではないかと感じています。</p> <p>それから、3 番の子育てに優しい事業所作りです。</p> <p>先ほど啓発という言葉を申しましたが、まさに企業がどう捉えているか、どの程度が世の中の標準とと思っているか、という企業経営者に対する啓発理解を促すということが必要だということを、この 4 番の意見のところで言われていると思います。</p> <p>特に論点という形では書きませんでした。事業内容の PR というのが市のご担当課の今後の展開としてあるわけですが、実際どのようにして意識を引き上げていくのかなというのがあまり見えないので、そのあたりも、具体的に示されるといいのかなと思います。</p> <p>それから、最後の 3 の 5 の結婚出産子育て環境整備プロジェクトで、性格の違う事業を混在させすぎている。枠組みとして、どうしてこういった事業がここの中に入ってきたのかなと思うところがあります。きっとストーリーとしてはあったのかもしれないですが、論点も括弧つきで書きまして、様々な施策が混在しているため、重点プロジェクト全体として評価しにくいということで、次期総合計画でくり方の変更が可能と書きました。</p> <p>委員からのご意見でも、アイディアとか、控えめな要望というようなことは書かれています。そこに 4 つ書きましたが、戦略的な何かのご意見というのは積極的にはなかったように思います。これは評価としては、個々の施策をいかにしっかりやっているかというところを見ればいいのかもしいかなと思いますが、全体としては、まとめあげあぐねている状態です。</p>
	3-1 学びの協働アクションプロジェクト
会長	白熱サイエンステクノロジーの開催について市の考えはありますか。
教育部政策官	<p>白熱サイテック教室の開催についてですが、書き方を見ますと、事業実施がなしというかなり後ろ向きの回答がされていますが、担当課の社会教育課に確認を行いました。現在の白熱サイテック教室という枠組みで行うと、継続性だったり、各学校にまんべんなく教室が行き渡るようにしたりとかというのがなかなか難しい状況であるので、開催がだんだん困難になってきたということがあります。</p> <p>掛川市の教育の関係ですと、理科の実験機材というのは、予算の割り振りが難しいところもあるので、企業や大学との連携の中でそういった実験を含めた形のものを提</p>

発言者	発言内容
	<p>供したいというのは、学校教育課と社会教育課で同じように考えているので、新しい枠組みの中で考えていきたいということで、このところは実施なしというような形をとらせていただいておりますが、新しい枠組みでの実施等は1年ぐらいかけて検討しますということです。</p> <p>ある程度形が見えてきたら、ご説明の方ができるのではないかと考えております。</p>
会長	<p>よりよい開催方法を検討しているということでもよろしいでしょうか。</p> <p>論点で市の目指す姿、方向性と市民ニーズでミスマッチがあるのではないかとありますが、どうでしょうか。</p>
教育部政策官	<p>ニーズとの乖離があるということについて、担当課とここについての詳細な詰めをしておりますので、今具体的にどのような乖離があって、事業と子供たちが求めたり、親御さんが求めるニーズと乖離しているかということがお答えできかねる状態ですので、また調査をして報告をさせていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>委員のご意見の中で特に何か特別なことをやらなくてもいいと。</p> <p>日常的な居場所作りなんです。</p> <p>施策として展開する場合には何もやらないというのが、事業として難しいということも、何かやらないというところがやっぱりこの強制力として働くのではないかと思っています。</p> <p>行政の立場で何か事業を進めていくというときに。</p> <p>でももう少し自然体でいいんですけど、というのをおっしゃりたいのではないかなと思うので、今後の事業展開の中でそういう視点も、一般に親御さんにあるかと思っておりますので、その辺りもご配慮いただければということです。</p>
教育部政策官	<p>担当課に伝えておきます。</p>
副会長	<p>小中一貫校整備事業の関係で、外部評価は課題についての記載がないけれど全て順調ですか。</p>
教育部政策官	<p>原野野学園と城東学園とこれまで研究してきたものを2カ所載せています。</p> <p>公共施設のマネジメントと将来の子どもの数を含め、総合的に進めていきたいと考えております。</p> <p>小中一貫教育のプログラムとしては、ある程度の形はみておりますので、それが例えば一体校という形で出るのか、一貫校として出るのかということは地域性を考慮しながら、進めていきたいと思っております。</p>
3-2 子どもは地域の宝 地域の子育て力向上プロジェクト	
委員	<p>地域子育て支援員、柱としてやればいろんなことがスムーズにいくのではないかと、4番の意見のところで言われているかと思っておりますが、そういう考えに対して、担当課がどういうふうにおられるかということをお聞きしたいなと思っておりました。</p>
こども政策課主幹	<p>地域子育て支援員制度というものは地域で子育てを支援できる人材登録の制度の検討、人材登録の制度になります。</p> <p>現在、KPIの中で23地区と今回報告をさせていただいております。</p> <p>48ページになりますがKPIの中で、社会参加、世代間協働で世代間の協働で子育て</p>

発言者	発言内容
	<p>支援事業に取り組む地域ということで 23 地区、報告しておりますが、当課で行っている協働モデル事業というもので、ここ三、四年行っておりますが、そういうものに支援団体として募集をしまして、そこに参加していただいているのが、昨年度は原泉に参加していただいております。</p> <p>それ以外に、地区のまちづくり協議会の交付金を利用して、各地区で子育て支援の方を進めているのが現状でございます。</p> <p>また、本年度も地区の方からまた新たなこういう提案ということで、うちのこども政策課でやっている事業は、継続して事業展開ができないので、モデル的にやってみて各地区に周知をしていきたいという事業をやっていますが、本年度も、まち協からこちらに要望があります。時間はかかりますが徐々に地区の子育て支援は進めているというふうに今考えています。</p>
委員	<p>子育て世代向けの住宅の入居ということですよ。</p> <p>住宅の認定が実績 3 件で、実際に入居したのは、目標が累計 75 件のうち 9 件という状況になっていますが、これは認定が進まないのが要因なのか、それとも認定はしたけど、そういった需要がないのか、はたまた意見にあるように賃貸の方も広げてくれというような意見が委員さんの方で出ていますが、条件が厳しくて、認定が進まず件数が進まないのか、そこはどう認識されていますか。</p>
都市建設部 政策官	<p>子育て世代向け認定住宅の基準については、具体的に説明をさせていただきますと、階段部のところで要件が厳しく、一般の大工さんだと作れる階段ですが、基準にのっとったハウスメーカーの階段だと認定にならない、という問題があり、なかなか認定に繋がらなかったわけですが、これを踏まえて本年度、一部その階段のところを緩和することによって、今後そういう認定住宅に対応できるような方が増えるのではないかと見込んでおります。</p>
委員	<p>認定がなかなか進まないから、その件数が伸びてこないということで、逆に認定が進めば、そういった需要はあるということですか。</p>
都市建設部 政策官	<p>今はそのように考えております。</p>
委員	<p>政策を見たときに非常にいい政策だなというふうに思ったので、伸びていかない理由を、今認定基準を緩和しているということで修正しながら、多分需要があると思いますので、需要があればそういったものに対応していったらいい政策だなということです。</p>
委員	<p>平成 30 年に認定基準の見直しをしますということが書かれていて、令和元年も専門家により判断基準の見直しをします、というふうな具合なので、認定基準とか判断基準とか基準を直すことに 2 ヶ年かかるという具合ですが、本当にその基準を直すということによりわかりやすく、そしてこの乖離も解消できますか。</p>
都市建設部 政策官	<p>まず、ご相談に来ていただくハウスメーカーさんなり、建築業者さんに対してのお声が、そこら辺の部分があるというところで、まずはその段階の関係等々、基準の見直しを考えております。</p> <p>具体的にそれがどのように展開していくかというところですが、そこまでは私の方</p>

発言者	発言内容
	も把握していませんので、また改めて整理をさせていただきたいと思います。
	3-3 家庭の子育て力・教育力向上プロジェクト
会長	KPIについては総合計画との関係で見直しとなりますか。 たとえば子育てコンシェルジュの件数です。
事務局	この辺も今度の総計の見直しにあわせて、検討させていただきたいと思います。
会長	三世代同居等支援事業についてはどうですか。
委員	他の住宅関係事業を含む事業のあり方を検討するというふうに書いていただいているので、これから検討していくのかもしれないですが、どんな形で違う事業をドッキングさせるのか、どういうふうに整理をつけていくつもりがあるのか教えてほしいです。
こども政策課主幹	三世代同居の支援事業ですが、今日の論点の中にもありましたが、意見の中で助成金の費用対効果について、3 ページですが、実際この事業を始めて本年度で5年目になります。 初めは50万円の助成から始まり、2年後に30万円、本年度から20万円の予算規模で事業を進めております。 当課としては、三世代同居の助成金ということではなく、三世代同居ってこういうところがいいよという情報発信の方法を、今後は進めていきたいということ考えております。 また、他事業というのは先ほど3の2にありました、子育て世帯の住環境の支援という事業があります。 都市政策課の方で行っておりますが、そこと連携をとりながら、事業を展開していきたいと今後は考えております。
委員	幼稚園児ぐらいまでを想定していることですか。小中学校までか。
こども政策課主幹	ちらしの中で一緒に住んでいる場合は、この事業の対象になりません。ばらばらに住んでいて、家を建てたり、改築するとき一緒に住みますという方が対象になります。 お子さんが生まれるとか、未就園児のお子さんがいますとか、小学校のお子さんいますという家庭が該当になりますので、条件とするとだいぶ絞られた方が対象になるというのがこの制度になります。
委員	学校だといじめだとか、家庭だと虐待とか、不登校だとか、そういうものは、この子供を大事に育てていくとか、教育力向上とか、そういう言葉はどこにも出てこないですが、今回この取り組みの中ではそういうところにはスポットは当てないでいくということですか。 そういうときはこういう支援しますとか、そういうところまで踏み込んだ、掛川市としてはそういうのが起きたときには支援しますよとか、そういうものを謳っていれば教えてもらいたいです。
こども政策課主幹	家庭における子育て力向上の中で、掛川市の総合計画の個別政策の中には、虐待の関係や、子育ての関係の施策というのが書いていますが、今回のこの地域創生の事業の中の重点プロジェクトの中には載っていないということです。

発言者	発言内容
会長	この事業を進めることによる効果についてどのような認識をもっていますか。
こども政策課主幹	最終的にはお子さんの出生数が増えて育てやすい環境作りというのをめざして進めておりますので、KPI を出生数にするのは議論があるかと思っておりますので、要検討のあるところだと思っておりますが、市民の意識調査の中で、子育てしやすいまちだという割合が増えていくように頑張っていきたいと考えております。
会長	この事業は、導入してから何年目になりますか。
こども政策課主幹	<p>三世帯同居ですが、本年度で5年目になります。</p> <p>他市からの転入は、小学校にあがるとか、保育園に上るといときに転入されてきて同居を始めるよ。</p> <p>同居も同じ敷地はOKなので、そういう中で転入人口の方は増えています。</p> <p>他市によっては、近況100m以内とか、全国的には2キロ以内もいいというような制度をやられている市町もありますが、掛川市では同じ敷地内ということで進めております。</p>
3-4 企業の子育て力向上プロジェクト	
会長	仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しで、各企業での仕組みづくりに市がどのように関わることが出来ますか。
こども政策課主幹	<p>市の方で子育てにやさしい事業所ということで事業展開をしています。</p> <p>認定事業所の中で、今子育てにやさしい取り組みをしていただいている企業さんが多くあります。認定事業者の企業の方を集めて情報交換し、子育てパパなどの事業を企業の方にお願ひしながらやる事業だと思っておりますので、話を出させてもらって、事業展開ができるかどうか検討していきたいなと思っております。</p>
会長	県の男女共同参画課でもそのような事業所を表彰する取り組みを行っていますよね。
委員	<p>男女共同参画課でもそうですが、健康福祉部のこども未来課でも似たようなこと行っていますし、経済産業部の労働雇用政策課でもやっています。県でもかつてバラバラに企業に呼びかけて、もういい加減にしてくれと言われた経緯があり、近年は三つが、ちゃんと話し合っ、企業に過剰に呼びかけや啓発など、あまり負担をかけないようにというふうに行っています。国ではプラチナくるみがあり、それとも重複感があり、同じアプローチを各市もされるというのは、あんまり効率的なやり方ではないと感じています。</p> <p>だから、県がやっている企業の表彰や啓発のための講座は、そちらの事業に任せて、そこに市が広報に協力したとかどどん送り込んだ、それが成果だと思います。</p> <p>その後のきめ細かい一対一の何か仕組み作りとして、詳しい方を発見しますと言うふうに、段階で役割を分担された方がいいと思います。</p>
委員	<p>県も必死になってやっていますよね。</p> <p>県の事業は使っていただいて、横出しの部分で市の独自性を発揮した方が良いと思います。</p>
委員	企業の子育て向上ということですので、育休を何人取得したかとか、在宅勤務を認めている企業なのかどうかかなのかとか、子供の幼稚園の行事に参加してから半日だけ

発言者	発言内容
	<p>出るとか、フレックスタイムであるとか、そういうものを導入している企業が、何社になりましたよとか、何社ありましたよとか、そういう方がわかりやすいような感じがします。掛川市として企業の子育て力向上のために取り組んでもらいたい項目を羅列して、五つできたら五つ星などという形で行うのが良いのではないのでしょうか。企業は求人雇用のアピールに使えるわけですから、そういうふうに繋がっていくと、企業さんも本気になって取り組むようになるのではないかなと思います。</p>
	<p>3-5 結婚・出産・子育て環境整備プロジェクト</p>
<p>会長</p>	<p>個々の事業との整合性がどうかと思います。 事業をいくつかくり直した方がいいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>全体的に言えることですが、漠然としていたりだとか、対象が誰なのかがわかりにくかったりしますので、計画は計画でそのままにするにして、施策のレベルで整理表みたいなもので、各事業の関係をご提示いただけるとわかりやすいと思います。 それを計画で加工すると、こうなりますというのがあれば、わかりやすいと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>結婚、出産、子育てが一つの流れになっている。 そこに全て紐づけようとするのでわかりにくくなると思います。 施策ごとの整理をしてみてくださいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>5 ページに市民意識調査の結果があります。 それで今の結婚出産子育て環境の整備は、満足度が低く、優先度が非常に高いという、一番市民から望まれている政策ということになります。 まず、13 番 13 と書いてあって結婚出産子育ての環境整備、この下の項目はありますか。市民にはこの言葉で聞いていますか。 それともその下に、例えば結婚、出産、子育て環境について満足、不満足、優先順位が高い、低いというのは聞いていませんか。 もしそういうのがあれば、今言った項目の整理に非常に役に立つのではないかと。つまり、市民が属していなくて、優先度が高いものについて重点的に柱としていくということが考えられると思いますが。 いずれにしても、この項目というのは、市民の方のニーズは非常に高いということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>市では、総合計画の中に 18 のプロジェクトがあり、その中の一つが結婚出産子育て環境の整備ということで、その下に具体的な内容として、安心して結婚出産子育てができるための環境整備をします、と謳っております。 その 18 プロジェクトを並べた中で満足に感じるものを三つ以内で選んでください。そして優先度の高いものを三つ以内で選んでくださいという質問の中で、このような結果が出たということです。</p>
<p>委員</p>	<p>この下の項目はないということですね。 いずれにしてもエリアが非常に重要だということには変わりないので、そういった意味では、ニーズに沿った対策がこの中で取れるようにした方がいいだろうということですね。</p>

発言者	発言内容
委員	総括的な意見があればお願いします。
委員	<p>基本的に、進めていく上でいろいろな切り口があり、専門家も多くのいろんな立場が関わっていただける分野かと思います。</p> <p>どの分野に、どこが最も展開していくのかという関係者を明らかにすることで、そうすると助けてもらいたい若い世代のその人たちも、自分に向けての施策はこれ、事業はこれ、とわかるというのも一つ浸透するポイントかと思います。</p> <p>漠然としがちな指標も、明らかににはなかなか難しい分野かと思いますので、その辺りにご留意いただいて進めていただければと感じています。</p>
戦略の柱 4 明日の掛川をつくり豊かで潤いのある安心な暮らしを守る	
副会長	<p>64 ページからになります。明日の掛川をつくり、豊かで潤いのある安心な暮らしを守るというのが重点施策のコンセプトになりますが、プロジェクトは五つあります。</p> <p>国土強靱化、スマートコミュニティ、ふくしあ、掛川流協働によるまちづくりの深化、最後が行財政改革の推進です。</p> <p>国土強靱化については、主に南海トラフの巨大地震に対する災害に係る部分の取り組みで、ハード部分について二つほどあります。</p> <p>現在進行中ではありますが、ご意見についてはそれぞれ評価が出ており、質問の内容を事務局の方から回答いただいております。その中身とのリンクについては説明できないですが、国土強靱化の観点からいって、一つは災害のための強化として防災の強化事業、広域地域間幹線道路の整備促進があります。</p> <p>この三つで、掛川市における国土強靱化がどうかということについて、各委員のご意見を伺ってみたいと思っております。</p> <p>具体的には、委員から、多言語や多文化へのご指摘、災害時における対応としては必要なことだと思いますけれども、評価への掲載の有無について、皆さんご意見いただきたいと思っています。</p> <p>広範囲の停電につきましては、現在別のグループで検討するとありますので、その状況も確認をしていきたいです。</p> <p>それから、3～7番については、評価や質問に係る意見ですので、事務局からご発言いただきたいと思っています。</p> <p>それからスマートインターにつきましては、これからの検討課題と思いますが、道路維持管理に関わる部分については、最近の高齢者の交通事故に鑑みて、新たな視点による見直しが必要ではなかろうかと思っております。</p> <p>それから、重点施策の 4 の 2 のスマートコミュニティの実現につきましては、主に太陽光発電、それからバイオマスについてのご意見ではありますが、最近の状況がそれぞれ変化をしてくれていますので、それについて意見を伺ってみたいと思っています。</p> <p>それから事業費に対する補助金についてのご指摘もありますが、補助金のご指摘について、事務局の回答を伺ってみたいと思っています。</p> <p>それから、重点施策の 4 の 3、ふくしあであります。これは、健康子育て日本一の実現を目指して、市内 5 ヶ所に設置された地域住民の医療、保健、福祉、介護の総合</p>

発言者	発言内容
	<p>推進機関として、ふくしあができました。</p> <p>また、他市町に対しては先進的な取り組みだと思いますが、5つのふくしあでご覧いただいたように、様々な取り組みがありますので、評価をそれぞれいただいています。</p> <p>その中で、ふれあいサロンや三世代交流、孤食について評価をいただきました。</p> <p>それと検診のワンストップ化のご意見もありましたので、この件について見解を確認したいと思っています。</p> <p>重点政策の4の4、地域の絆で課題解決につきましては、掛川流協働によるまちづくりの深化がテーマですが、自助、共助、公助による連帯感ある地域社会の形成を目指した掛川流協働のまちづくりは、設立4年目を迎え、組織も安定化しつつある中、地域事情により事業展開にも地域間格差が見受けられます。</p> <p>これまでの事業を検証し、さらに深化させるため、各まちづくり協議会、本年度取り組みを進めています。</p> <p>地区まちづくり協議会は地域における連帯力、いわゆる強い絆作りの構築にかかっています。</p> <p>強い絆があればこそ、自助や共助も強化され、災害対策もより強化できるものと思います。</p> <p>向こう三軒両隣の付き合いがあつてこそ、様々な事業が計画通り達成できます。</p> <p>私も外部評価として、市民活動団体のまとまりと市議会は参加する市民協働会議の開催についての検討をすすめていただいた方がいいのかなと思いますし、もう一つは、地区まちづくり協議会の役員の質向上を図るための策。いままでは事務局長中心とした質の向上を図っていますが、これからは組織そのものの資質を高めるための施策が必要だろうと思っています。</p> <p>それから、防災の関係で、自らの命はみずから守るってことはですね、防災の基本だと思います。</p> <p>市議会では、掛川市の防災意識の高いまち作りを推進する条例が制定されました。具体的な施策も含めて、進める必要があるのではなかろうかと思っています。</p> <p>それから、まちづくり協議会のビジネス性を持った事業についてご指摘がありましたが、地区まちづくり協議会の組織の自立化に繋がる問題と思います。</p> <p>地区による組織の生育度も異なりますので、これも検討が必要だと思います。</p> <p>生涯学習についてのご指摘もありました。</p> <p>昨年地域学習センターの組織の位置づけが変わりましたので、生涯学習の運動が退化しないための取り組みも必要だと思います。</p> <p>あと3から15では、質問ご意見です。</p> <p>次に重点施策の4の5、選択と集中、行財政改革の推進に係るものにつきましては、重点施策が行財政改革の推進となっていますが、実施項目で具体的な施策等を見ると、プロジェクト名が適切であるか違和感がある感じがする。</p> <p>外部評価としては、前向きな評価と確認事項ですので、詳細な質問は省きます。</p> <p>いずれにしても、重点施策につきましては、現在進行中の内容が多いので、各委員か</p>

発言者	発言内容
	ら意見があればお願いします。
	4-1 国土強靱化 強くしなやかな明るい未来の国土づくり
会長	<p>三つの具体的な施策があるわけですが、3事業で国土強靱化であるかどうかという問いでしたが、ご意見があればお願いします。</p> <p>当面は3つに力を入れていくでよろしいですか。</p>
事務局	そうです。
会長	強靱化ではたくさんあると思いますが、とりわけ5年というサイクルでやっていくということですかね。
委員	お城の側の仁藤や連雀の商店街は、建物が繋がっていますが、地震等が来た場合、あそこは大丈夫ですか。アーケードは繋がっていますよね。
企画政策部長	確認はしますが、用途の関係で耐火基準の高い場所になっている。
委員	掛川市の事業所で、海岸に近い工場や事務所にはゴムボートを推奨するのもいいのではないですか。もし津波が防災林を超えてきた場合を考えて。
事務局	海岸に近い事業者には、避難タワーや屋上に避難できる形で整備させていただいています。
副会長	避難タワーはいくつありますか。
危機管理課主幹	市で整備したものは3箇所です。
副会長	<p>津波の関係で今、土を盛って作っていて、あれを超えないであろうという想定ですが、津波は切れているところから入ってくるので、健常者だと逃げる時間はあるが、弱い方は近くにないと逃げ切れませんよね。</p> <p>そうすると実質的にはやはり津波に対しては避難タワーが絶対有効だと思います。</p> <p>発災してから4、5分で津波が来る。その間に高齢者に逃げると言っても、逃げようがない。</p>
会長	<p>このあたりはハード整備にかかること、お金もかかり、短期間でできることでもないと思います。短期間であれば、ソフト面に対応できる。</p> <p>ソフトとハードを合わせた形で国土強靱化に向かうということを考えてみてはどうでしょうか。</p> <p>スマートコミュニティーの実現について、太陽光発電とバイオマスですが、昨年もご意見をいただいております。</p>
委員	<p>記載されている内容があまり去年と変わっていないということです。</p> <p>県の方の所管課にも訪ねて、太陽光発電の導入に関しては、県の導入目標も何回も上方修正をしています。</p> <p>つまり世の中の趨勢として、ものすごい追い風という期間だったと思います。これも非常に良い評価が出ていますが、もちろん政策としてしっかりされたと思いますが、社会的な背景があって達成できたという経緯があったと思います。</p> <p>今は発電よりも、蓄電池などの補助に切り替えたりという、小さな事業の対応携帯を変えていくことで、ニーズに合ったものになっていくと思います。こういう枠組み</p>

発言者	発言内容
	<p>の中でこのプロジェクトをやっていくということで、掛川市でされているのであれば、それを淡々と行っていくことかなという考えが変わった。</p> <p>去年は特にスマートコミュニティという言葉を非常に大きくとらえていて、報道などされる先進的なスマートコミュニティのあり方が実に素晴らしいもので、それに比して、実際施策がどうなのかというような論点で話をさせていただいたが、公民館などの公的なものに設置して、それを地域に分けていくということを、掛川市としてのスマートコミュニティであるというふうに事業を定義したのであれば、それは全く問題ないことと思っ直しています。</p>
	<p>4-3 「ふくしあ」でつなぐ 地域の健康づくり</p>
<p>委員</p>	<p>市内5カ所にある地域医療センターふくしあは、小中学生に周知されているか。</p> <p>子育てにも繋がると思う。ボランティアがあまり載っていないので、ボランティア活動で、ふくしあの窓を拭いたり、草取りをするなどのボランティア活動しながら小中学生に今のうちから周知してもらう形で繋げていけば、子供の教育に繋がるのではないかと思います。</p> <p>学校教育とふくしあの繋がりはありますか。</p>
<p>企画政策部長</p>	<p>特段ない</p> <p>ふくしあは色々な機能を持っているので、子供たちが知っていると言うことはいいこと。</p>
<p>こども希望課主幹</p>	<p>子育ての関係で、健康医療課の保健師がふくしあを使っての子育て相談や健康相談を月に1回行っている。ふくしあで子育ての相談を行うことでふくしあの周知を4、5年前から行っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ふくしあの大きな特徴は、社協も入っていること。総合的に医療、保健、福祉を一体的に対応できるところがいい取組だと思う。</p> <p>中学生、高校生がふくしあの存在を知っていることはいいこと。</p> <p>認知症の方が増えているので、認知症サポーターの要請があちこちで行われている。富士宮の高校生はみんな認知症サポーターの資格を持っている。</p> <p>金融機関も認知症サポート資格を取らせている。サービス業がそのような方向に向かっている。ふくしあをみんなが知ることはすごく大事なことです。</p> <p>うまく活用して豊かな生活を送っていくことに結びついていけば良いと思う。</p>
	<p>4-4 地域の絆で課題解決 掛川流協働によるまちづくり</p>
<p>副会長</p>	<p>まちづくり協議会の設立が4年目。PDCAを検証する時期になっている。各まち協で実証して欲しいと依頼をしている。</p> <p>それぞれのまち協の地域性にあった形で進めているので、確立的にこうというものはない。</p> <p>組織の発展を考えるとどういった形で進めるかの一つの視点、方向性があっても良いと思う。</p> <p>地区集会という地域住民と行政との対話が年に一回ある。そのあり方について周りの環境が変わってきたので、一年かけて見直す取組を始めた。</p> <p>地域コミュニティと行政との関わりの部分で非常に重要な、地域コミュニティが</p>

発言者	発言内容
	<p>変わるくらいの大きな内容なので、まちづくり協議会と地区区長会連合会と協働して進めている。</p>
<p>会長</p>	<p>取り組みの施策の1のところにありますように活性化そのものが、相当レベルアップしてきているということですね。こちららは、全体の制度的な枠組みができ上がっている、それを一つ一つ実際に進めていくという段階にきている。</p> <p>PDCA というお話がありましたが、そういうものを通して、実際に地域課題の解決に向かって大きく前進していくということになると思います。</p>
<p>副会長</p>	<p>具体的な施策の内容の中で、地区防災計画と自主防災会の組織化は概ねできていると思うが、防災に対する市民の意識の高揚、そのための施策を市議会で条例が作られたが、具体的にどのように進めるかということが、提出されていないので具体的な取組の施策が必要と思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そのあたりはぜひ3番目のところとリンクして防災計画の策定に向けての取組を進めていただくということで。</p> <p>基本的にはそれはまち作り協議会が中心になってやるということですか。</p>
<p>副会長</p>	<p>地区の防災計画は、自主防災会が防災計画をつくって、地区というくくりの中で補完している。まだ10数地区しかできていない。</p>
<p>会長</p>	<p>取組を強化してもらいましょう。</p>
<p>4-5 選択と集中 行財政改革の推進</p>	
<p>副会長</p>	<p>選択集中、行財政改革の推進の具体的施策の内容は、公共施設マネジメントの推進がいいと思います。</p> <p>水道事業の広域化や下水道計画の見直しについて、これで行財政改革という言葉でくくることができるか。</p>
<p>会長</p>	<p>水道事業や下水道計画が行財政改革という大きな取り組みの中で、どのような位置付けになりますか。</p>
<p>下水道課主幹</p>	<p>水道の広域化と下水道計画については、重点政策の中の選択と集中というところにかかっている。</p> <p>水道については、できるだけ広い範囲に水を届けるという第一使命と、事業をずっと続けていくミッションがあり、それらをより広域的な観点ですすめること。また、水道法が変わり、色々なことを合理的に、委託を進めるようすすめがあり、そういったものも含めて、近隣市町の枠組みというのは広く見渡して、事業の例えば一部の委託は共同化して、広域化を考えなさいということがありますので、その施策の一本の柱として二番目となっている。</p> <p>三つ目の下水道計画の見直しです。下水道計画は掛川市の場合、まだ全体の計画からすると進捗は半分以下の状態になっています。</p> <p>下水道の着手が、比較的、近隣の大都市に比べて20年ぐらいという非常に下水道事業のスパンとしては若い部類になります。</p> <p>浜松市、静岡市のように人口が90%のエリアを整備していくところに比べますと、まだ下水道をやり続けるのかというのが掛川市の状況です。</p> <p>人口減少がこれから進むかもしれないというご時世の中で、今までと同じ計画の枠</p>

発言者	発言内容
	<p>組みの中で、下水道を本当に作り続けるということが、掛川市全体の行政ニーズに対してどうなのかというところを見直さなければならない、ということが掛川市の一つの課題というふうにとらえております。</p> <p>下水道計画を見直すということ、あるいは計画そのものをスローダウンすること、計画をブラッシュアップする、それが財政的にどのようなウエートを占めるのかというところをきっちり計画として位置づけて事業を推進しなさい、というふうなところでも位置づけをするというふうな立て付けということで、承知はしておりますので、その辺のことでお話をお伺いいただければと考えています。</p>
副会長	<p>言っていることはわかるが、これだけではないのではないか。</p>
事務局	<p>3頁をご覧ください。</p> <p>重点施策4－5が選択と集中行財政改革の推進があり、右側の列が個別施策で4⑬⑭が行財政改革の主なものになります。詳細については総合計画に9つの施策の方向で記載がされています。その中の具体的な施策として、公共施設マネジメントの推進、下水道計画の見直しを載せさせていただいている。これだけでなく、他にも施策があります。</p>
委員	<p>総合計画と総合戦略はどのような位置づけかということで、関連性が高く区別が難しいが、そもそもは人口減少対策、人口維持に近い項目を出している。地域の施設マネジメント、上下水道がしっかりできているということで、移住に絡んでくるということで、関連づけて考えられると思われる。</p> <p>これは、今後の課題です。総合戦略の位置づけ、人口減少、人口維持に絡む項目をできるだけ集中的に抽出して、それに施策を打っていくというのが総合戦略だと理解いただけたと思います。</p>
4. その他	
事務局	次回会議日程の確認（省略）
5. 閉会	
事務局	（省略）